

2009年8月19日

報道関係者各位

慶應義塾大学
デジタルアーツ株式会社

【慶應義塾大学、デジタルアーツ株式会社共同調査】
「青少年のインターネット・携帯電話利用に関するアンケート」
調査結果の発表について

～慶應義塾高等学校生を対象に、大学院メディアデザイン研究科が
インターネットを安全に利用するための授業を実施、
ブログの危険性の認識が約40%増加～

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科(横浜市港北区)と、情報セキュリティメーカーのデジタルアーツ株式会社(東京都千代田区、代表取締役社長:道具登志夫)は、慶應義塾高等学校(横浜市港北区)の第一学年全生徒を対象に、「青少年のインターネット・携帯電話利用に関するアンケート」を実施し、本日、その結果を公表しました。

本調査は、高校生のインターネット利用実態や意識の把握等を目的として、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科がデジタルアーツ株式会社と共同で調査の企画・実施・分析を行ったものです。

アンケート調査結果のなかで、特に目を引く点は以下のとおりです。

- ・ 生徒の22%がインターネット上のトラブルに遭遇している。
- ・ ワンクリック詐欺やフィッシング詐欺に遭ったり、思いがけないグロテスク画像に遭遇したりした生徒は、ほぼ半数に上る。
- ・ インターネット利用に関するルールを親子で設定している場合もそうでない場合も、インターネット上のトラブルに遭遇する割合はいずれも30～40%程度であり、大きな差異はなかった。

また、調査対象の生徒家庭は、90%以上が自宅でパソコンを利用できる環境にあり、25%程度が専用パソコン端末を保有しており、家庭におけるパソコン利用が一般的な状況となっています。そのような中、社会的に大きく報道された「出会い系サイト」などは危険性の認識がすでに生徒へ定着していますが、他方、掲示板サイトやブログなどは危険性の認識が授業後に大きく向上する結果となりました。

今回の調査結果からは、生徒がインターネット上のトラブルに遭遇しないためには、インターネット利用に関するルール設定のほか、フィルタリング導入など何らかの具体的施策の必要性が示唆されるとともに、インターネットのリスクに関する教育の重要性が確認されました。

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科及びデジタルアーツ株式会社では、2009年11月までに、子どものインターネット・携帯電話利用に関する保護者の意識調査を実施するとともに、今後、中学生、小学生のインターネット・携帯電話利用に関する利用状況を同様に調査する予定です。また、一連の調査を分析することで、青少年インターネット利用環境に関する政策を提言していく予定です。

1. アンケート調査結果の注目点

【高校生のインターネット利用実態調査】

- (1) 携帯電話はほぼ全生徒が専用端末1台を所持、パソコンは94%の生徒が家庭で利用している。
- (2) 家庭でパソコンを利用する生徒の半数以上が、利用に関するルールが特に存在しないと回答している。
- (3) 両親から、インターネット上のトラブルを回避する方法について教わった経験がある生徒は14.3%、携帯電話利用のトラブルを回避する方法については6.7%にとどまる。
- (4) 生徒の約25%が、インターネット上のトラブルに遭遇した経験があり、危険に遭遇した生徒の約50%が詐欺行為やグロテスク画像に接触している。
- (5) パソコンスキルが高く、利用頻度の高い生徒ほどインターネット上のトラブル遭遇率が高い。初級者のトラブル遭遇経験が12.4%にとどまるのに対し、上級者では41.6%に達する。
- (6) インターネット・携帯電話利用について、親子でルールを設けている場合とそうでない場合とで、生徒がトラブルに遭遇する割合はいずれも30～40%程度であり、大きな差異はない。

【インターネット安全利用に関する授業の前後における生徒の意識変化調査】

- (7) 安全なインターネット・携帯電話利用にあたっては、フィルタリングが効果的な方策であるとの認識が生徒において授業後に高くなった。他方、フィルタリング以外の方策に関しては、効果的であるとの認識は授業後に必ずしも高くならなかった。
- (8) 授業を実施したことにより、インターネットの安全利用には、教師や両親との話し合いが必要であるとの認識を持つ生徒が76.2%となり、授業前よりも20%増加した。

2. アンケート調査の概要

- | | |
|-------------|---|
| (1) 対象 | 慶應義塾高等学校第一学年全生徒 |
| (2) 調査企画 | 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科、デジタルアーツ株式会社 |
| (3) 調査実施 | 一般社団法人融合研究所 |
| (4) 調査協力 | 慶應義塾高等学校 |
| (5) 実施時期 | 2009年6月8日(月)から12日(金)の5日間 |
| (6) 実施場所・方法 | 慶應義塾高等学校、「情報A」の授業前後で二回実施 |
| (7) 実施授業内容 | コンピュータウイルスによる被害、個人情報漏洩、ネット利用犯罪の被害と加害、青少年インターネット利用環境整備法、インターネットの安全利用 |

※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※本リリースは文部科学省記者会、科学記者会、各社社会部、文化部等に送信させていただいております。

(プレスリリースに関するお問い合わせ先)

慶應義塾広報室 児玉

TEL : 03-5427-1541、E-mail : m-koho@adst.keio.ac.jp

デジタルアーツ株式会社 経営企画部 担当：長井

TEL : 03-3580-3030、E-mail : info@daj.co.jp URL : <http://www.daj.jp>

(調査内容に関するお問い合わせ先)

一般社団法人融合研究所 担当：大坪

TEL : 03-5114-6722 FAX : 03-5114-6723

[追加資料]

<調査結果の詳細>

1. 携帯電話、パソコンの所有状況について

- 携帯電話はほぼ全ての生徒が専用端末1台を持っている。
- パソコンは専用端末を持つ生徒は25%程度であるが、90%以上が家庭で利用できる環境にある。

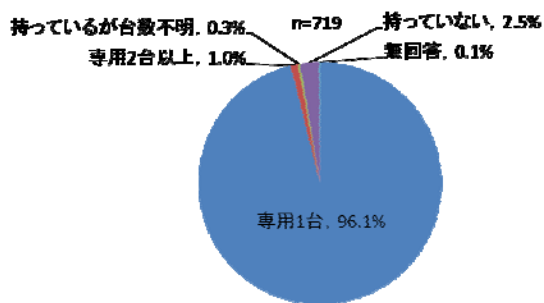


図1 携帯電話の所有状況

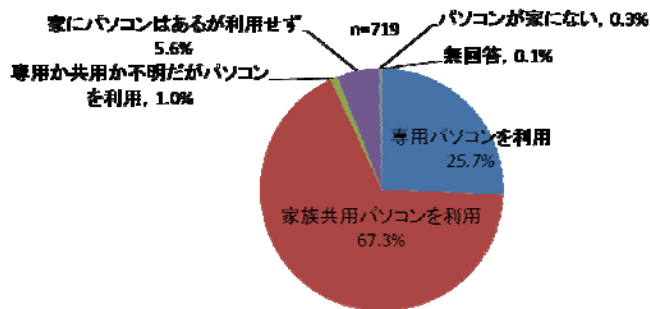


図2 パソコンの所有状況

2. 携帯電話やパソコン利用に関する、両親とのルール設定について

- 携帯電話を利用する生徒の43.3%が、利用に関するルールは特に存在しないと回答している。

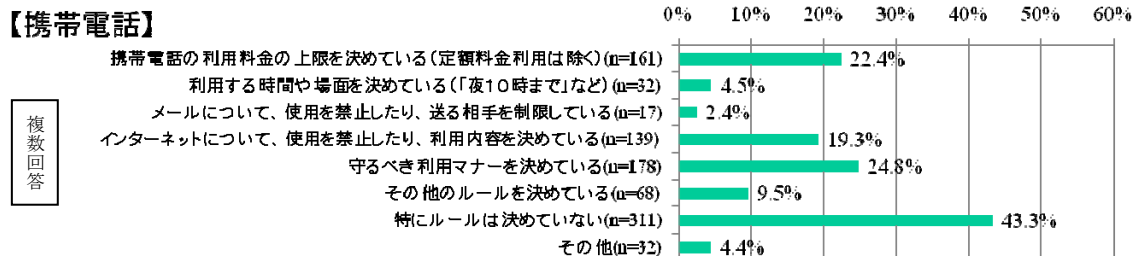


図3 携帯電話利用上のルール設定

- 家庭でパソコンを利用する生徒の51%が、利用に関するルールが特に存在しないと回答している。

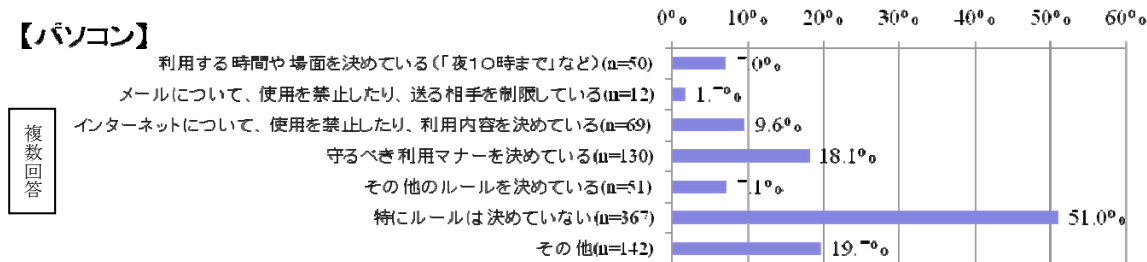


図4 パソコン利用上のルール設定

3. 携帯電話やパソコン利用に関する、両親からの教育状況について

- 携帯電話利用上のトラブルを回避する方法について、両親から教わった経験がある生徒は6.7%にとどまる。

【携帯電話】

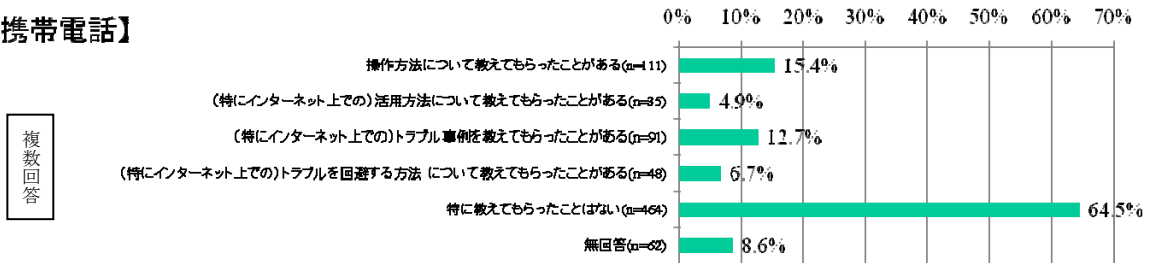


図5 携帯電話利用に関する教育状況

- インターネット利用上のトラブルを回避する方法について、両親から教わった経験がある生徒は14.3%にとどまる。

【パソコン】

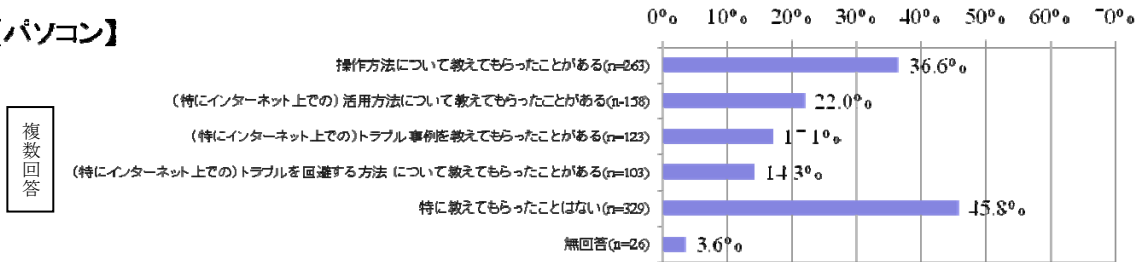


図6 パソコン利用に関する教育状況

4. インターネット上でのトラブル遭遇について

- 生徒のおよそ1/4(22.7%)がインターネット上のトラブルに遭遇した経験がある。
- トラブルに遭遇した生徒のうちの約半数が、詐欺行為やグロテスク画像に接触している。

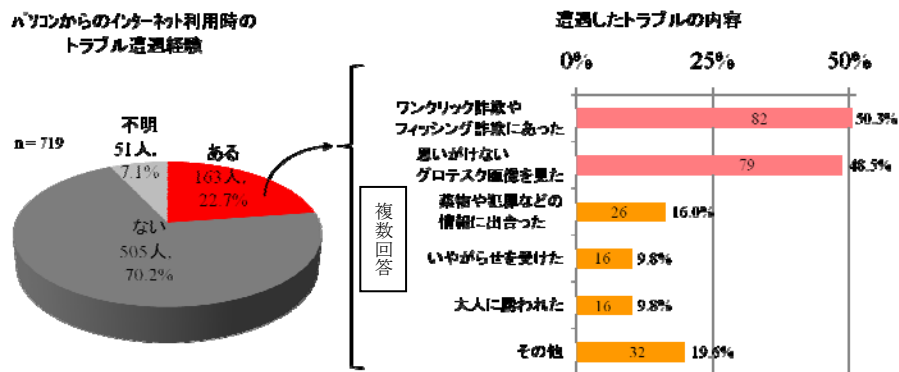


図7 インターネット上でのトラブル遭遇

5. パソコンスキルと、インターネット上でのトラブル遭遇について

- 利用頻度とスキルが高い生徒は、利用にあたって大人との話し合いは不要だと考える傾向にあるが、インターネット上の危険なコンテンツに接触する割合はそうでない生徒と比較し、むしろ高い。

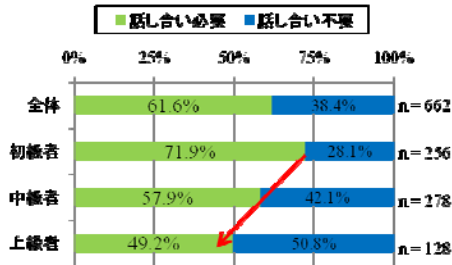


図8 大人との話し合いの必要性

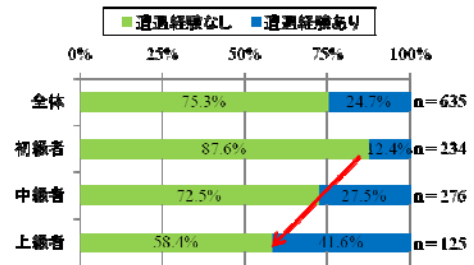


図9 危険なコンテンツへの遭遇

6. インターネット利用上のルール設定と、トラブル遭遇について

- インターネット・携帯電話利用について、親子でルールを設けている場合とそうでない場合とで生徒がトラブルに遭遇する割合に大差はない。

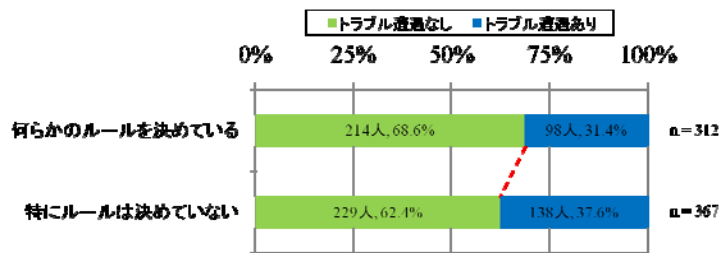


図10 インターネット利用上のルール設定とトラブル遭遇

7. フィルタリングの有効性認識について (授業前後での比較)

- 安全なインターネット・携帯電話利用にあたっては、フィルタリングが効果的な方策であるとの認識が生徒において授業後に高くなった。他方、フィルタリング以外の方策に関しては、効果的であるとの認識は授業後に必ずしも高くならなかった。

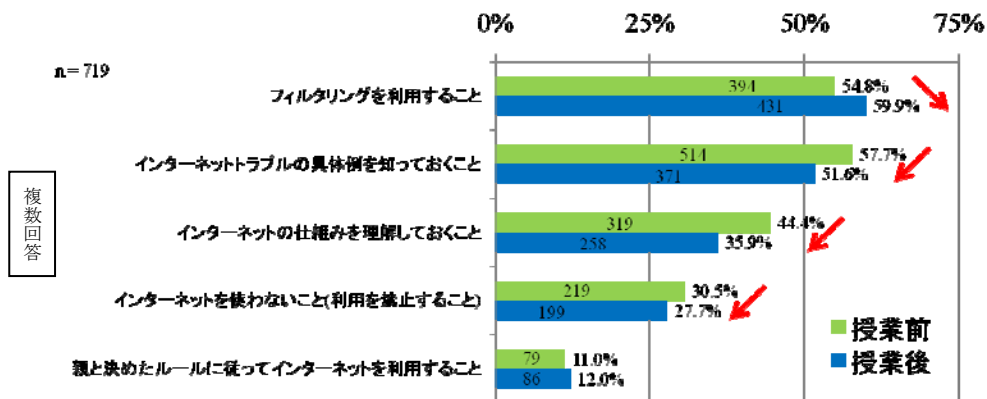


図11 フィルタリングの有効性認識

- 社会的に大きく報道されてきた「出会い系サイト」などは危険性の認識がすでに生徒に定着しているが、他方、掲示板サイトやブログなどは生徒の危険性の認識が授業後に大きく向上した。

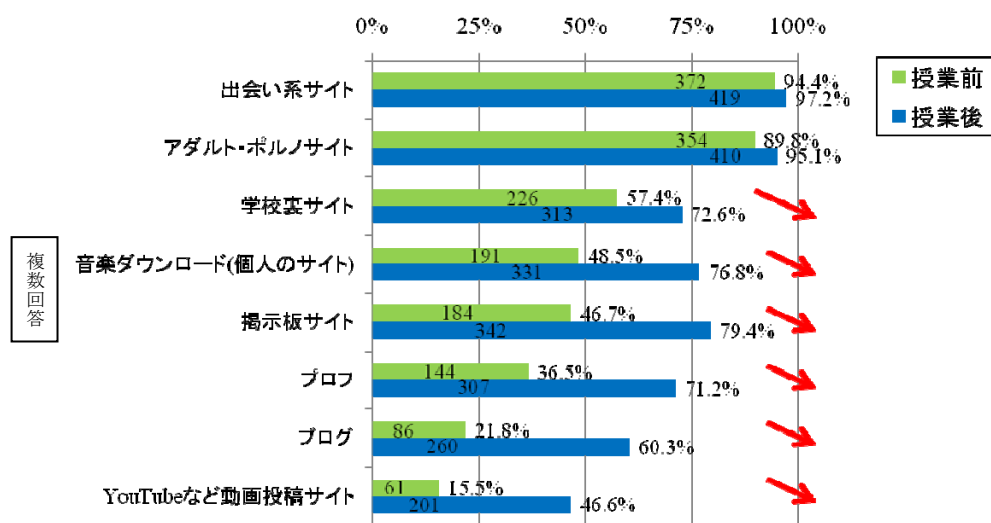


図 12 フィルタリングの有効性認識(危険と認識するサイト別)

- インターネットを安全に利用するための、教師や両親との話し合いの必要性に関する認識について(授業前後での比較)
 - インターネットを安全に利用するためには、教師や両親との話し合いが必要であるとの認識を持つ生徒が75.2%となり、授業前よりも15%ほど増加した。

【授業前】

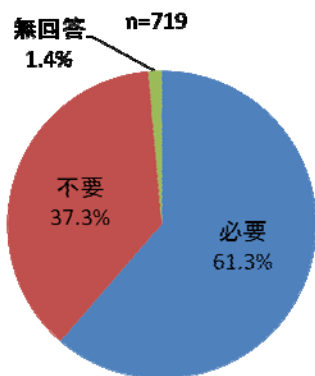


図 13 大人との話し合いの必要性(授業前)

【授業後】

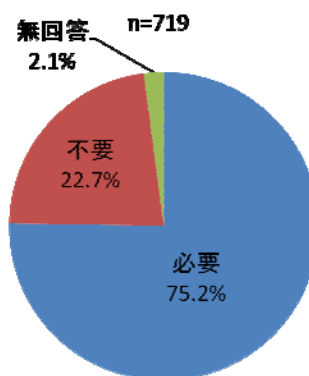


図 14 大人との話し合いの必要性(授業後)